

EPO/GEIC のヨハネスブルグ・サミット (WSSD) 関連事業について

WSSD に向けて EPO/GEIC が行おうとしたことは、WSSD に関する情報を発信し、NGO や一般市民の WSSD への関心を高め、参加を促すこと、そして政府と NGO などとが直接対話できる場を設定し、WSSD に関する知識・情報の共有と異なる見識の理解を可能にすることであった。

具体的に行った事業は、以下の6つである：

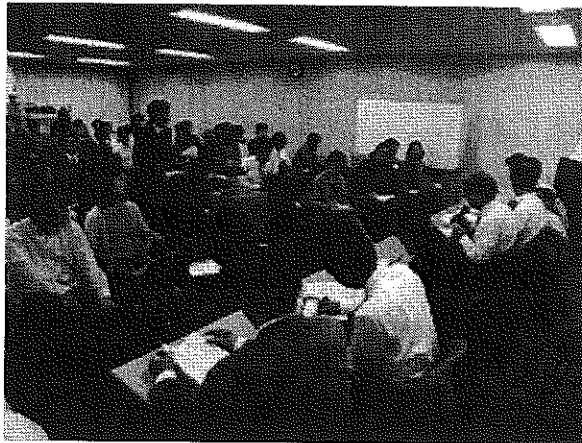
- 1) 「ヨハネスブルグ・サミットに向けた NGO/NPO など意見交換会」の開催
- 2) WSSD 関連情報を交換・発信する専用のメーリングリストの開設・提供
- 3) WSSD 関連情報を日本語で発信する WSSD 情報ウェブサイトの運営
- 4) GEIC の展示スペースを使った「ヨハネスブルグ・サミット展」の開催
- 5) サミット期間中のニュースを発信する速報ウェブサイトの運営
- 6) WSSD に関連して様々な活動を行った NGO の活動内容や、今後の展望をまとめる「NGO 活動報告集」の作成

1) 「ヨハネスブルグ・サミットに向けた NGO/NPO など意見交換会」の開催

2001 年 8 月から WSSD 終了後の 2002 年 9 月まで全 13 回開催。

主な参加者は WSSD に関心のある NGO や一般市民、企業関係者やメディアなど。政府からも毎回環境省・外務省の WSSD 担当者が参加。

会では、政府と NGO の異なる視点からの WSSD 準備・本会合、関連会合の事前・事後報告の他、WSSD 参加に必要な情報の伝達、専門家を招いての勉強会なども行った。また、会に直接参加できない人のために、議事録や配布資料をウェブで公開。



この意見交換会からは、WSSD 参加の中間支援組織としての役割を担った「ヨハネスブルグ・サミット提言フォーラム (JFJ)」が組織された。

2) WSSD 関連情報を交換・発信する専用のメーリングリストの開設・提供

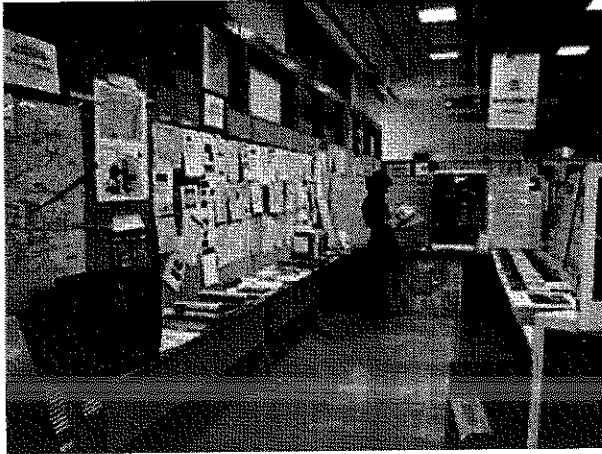
2001 年 8 月より、意見交換会参加者を中心に登録を開始、WSSD が開催された 2002 年 9 月時点での総登録者数は 347 人であった。開設以後、NGO や一般市民の他、メディアや政府関係者にも WSSD 関連情報発信・交換ツールとして活用された。

3) WSSD 関連情報を日本語で発信する WSSD 情報ウェブサイトの運営

2002 年 1 月より 2002 年 10 月まで、環境省・環境 goo と協働で運営。

WSSD 参加の情報を含め、国連やその他海外団体の文書や情報を集めて、一部環境省やボランティアによる翻訳を発信したほか、国内での WSSD 関連情報も掲示。

4) GEIC の展示スペースを使った「ヨハネスブルグ・サミット展」の開催



2002 年 8 月 21 日から 10 月 3 日まで (WSSD 開幕直前から閉幕後約 1 ヶ月間) GEIC の展示スペースを利用し、ヨハネスブルグ・サミット提言フォーラムと共同で開催。環境省や国連大学とのつながりも生かし、パネルや書籍で国連・政府・NGO それぞれのサミットに対する取り組みを紹介。WSSD 開催中は、現地で活動中のスタッフからの写真や情報の掲示や、サミット関連の新聞記事のファイル展示を行った。

5) サミット期間中のニュースを発信する速報ウェブサイトの運営

< <http://www.geic.or.jp/summit/index.html> >

現地にスタッフを派遣してニュースの取材と写真撮影を行い、日本にいるスタッフがそれらをウェブページに加工して情報発信した。「Yahoo!」などの検索ページにも登録され、期間中約 10,000 件のアクセス数があった。JFJ や FoE ジャパンなどの NGO が、NGO の視点からの情報発信を行っていたこともあり、EPO/GEIC は中立な視点からの情報発信を心がけた。

6) WSSD に関連して様々な活動を行った NGO の活動内容や、今後の展望をまとめる「NGO 活動報告集」の作成

EPO/GEIC が把握する、WSSD 関連の活動を行った国内の NGO、50 団体に協力を要請。各団体が WSSD に関連して行った活動内容と、団体にとって WSSD はどういう意味があったのか、なかったのかを評価してもらった。WSSD で討議された内容は広範であり、参加した団体の種類や専門性も多様なため、様々な評価を記録として残すことを目的としたものである。各団体が発行した報告書や団体の発言が記録された記事なども併せて収集し、GEIC での閲覧ができるようにした。

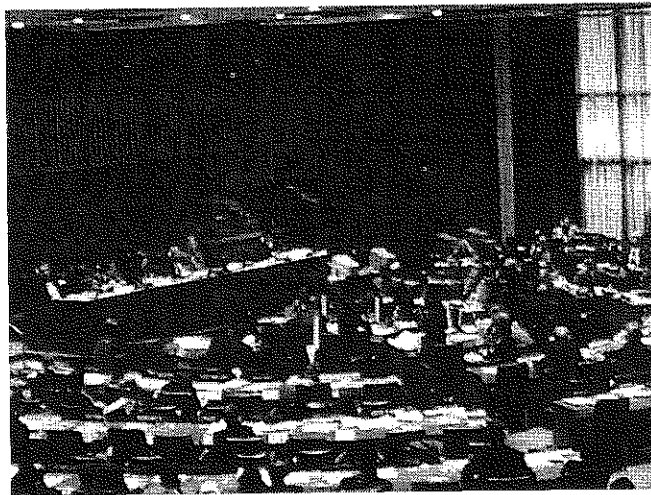
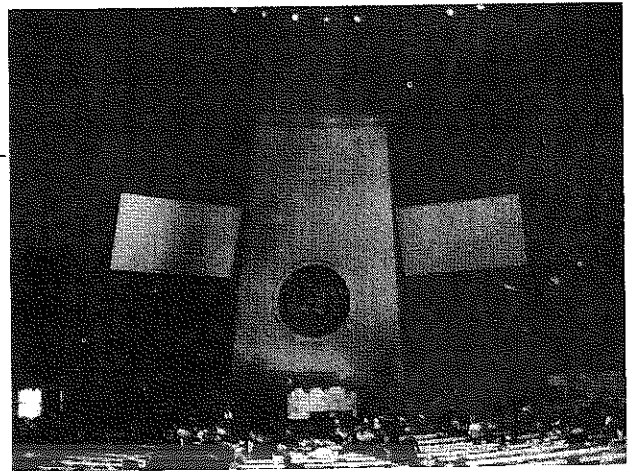
以上の事業を通じ、他機関に先駆けて WSSD の情報発信を始めたこと、直接・間接的に NGO や個人の WSSD への参加・活動を多少なりとも支援できたことは成果であった。しかし今後国際会議などで同様の支援を行う際には、情報の質・量・速さを今回より改善する必要がある。独自のネットワークや情報発信手段を持つ NGO と連携し、情報のすみわけと共有を行うことで、より幅広く有益な情報発信を可能にすることも重要である。

今後の展望として、EPO/GEIC で行ってきた「意見交換会」を、政府と NGO とが「対話」できる場に変えて、政府にとっても NGOにとっても、もっと建設的で有効なツールにできないか検討中である。

ヨハネスブルグ・サミット資料集

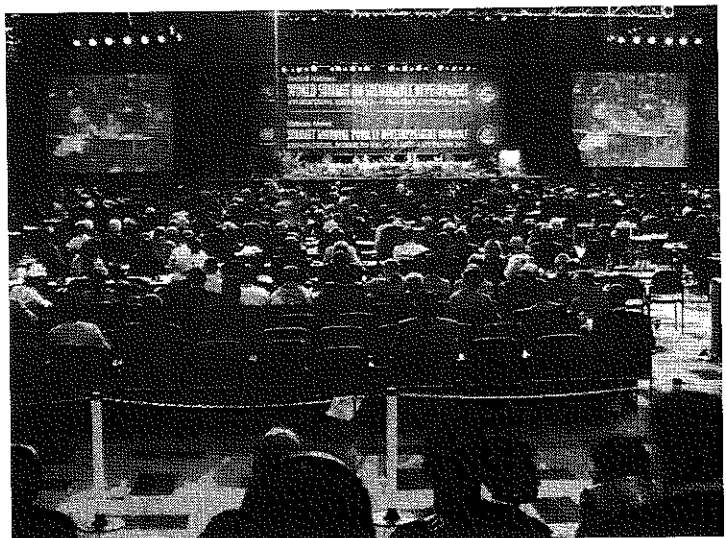
国連主催会議の様子

ニューヨーク国連本部 総会会場
(マルチ・ステークホルダー・ダイアログ
:第2回準備会合)



ニューヨーク国連本部 会議場
(マルチ・ステークホルダー・ダイアログ:
第2回準備会合)

ヨハネスブルグ
サントン国際会議場 本会議場
(マルチ・ステークホルダー・イベント:
最終本会議)



サミットデータ

● **期間** 2002年8月26日～9月4日

● **場所** ヨハネスブルグ (南アフリカ共和国)

● **参加者** 計約21,000人

(首脳104人を含む191ヶ国の政府代表約9,100人+NGO・女性・青年・先住民・企業等約8,200人、その他国際機関・プレスなど)

● **最終成果**

<タイプ1>

(全加盟国の合意文書)

- ・ヨハネスブルグ宣言
- ・ヨハネスブルグ・サミット実施計画

<タイプ2>

(任意のパートナーシップによる、合意不要な自主的取組み)

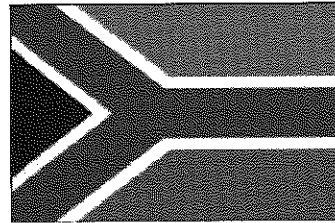
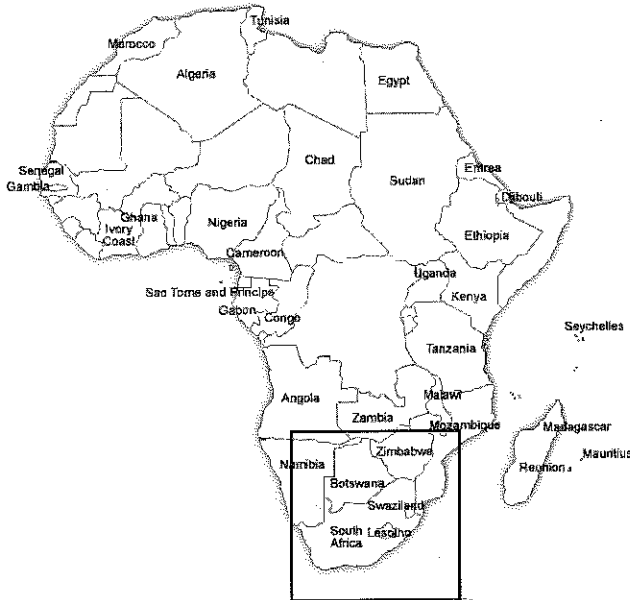
- ・約束文書

(Record of Commitments/Partnership)

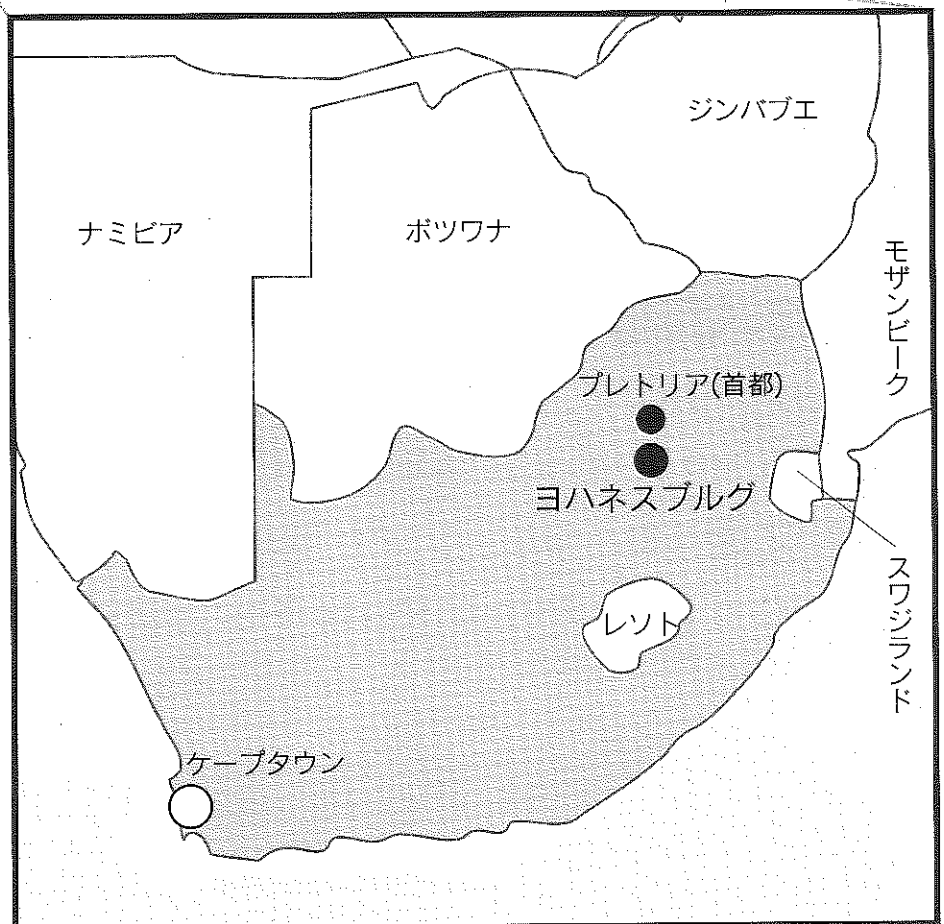
※会期終了までに、228のパートナーシップ・イニシアティブが登録された。

開催地の背景と概要

南アフリカ共和国の位置



南アフリカ共和国 Republic of South Africa
首都：プレトリア
国土面積：約 122 万 km² (日本の約 3.2 倍)
人口：約 4,300 万人
主要言語：英語 / ズールー / コサ / アフリカーンス
主な宗教：キリスト教、ヒンズー教、イスラム教
時差：7 時間 (日本より 7 時間遅れ)



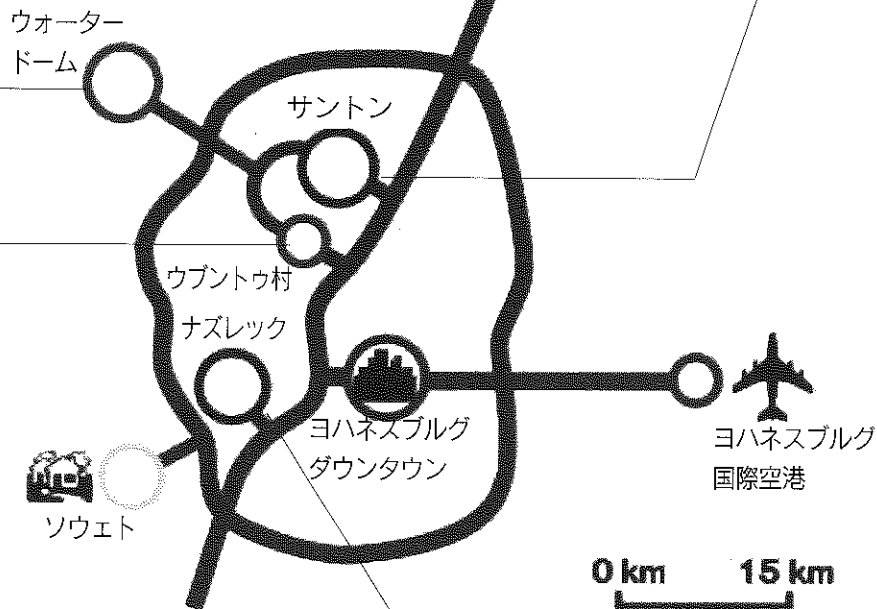
■主なサミット関連会場



ウォーター・ドーム
国際水管理研究所 (IWMI) とアフリカ
ンタスクフォースとの共同開催による、
水をテーマとした展示会。



サントン・コンベンション・センター
各国首脳、政府間交渉のためのサミット本会
場。周辺には各国政府の事務所なども点在。



ウブントウ村
南ア政府による展示会場。各国政府、政府間機関や
企業の取組みの展示やセミナーなどが行われた。



ナズレック(グローバル・ピープルス・フォーラム会場)
各国から集まったNGOの会議やセミナー、展示
が開催された。ダンスなど様々なパフォーマンス
も見られた。

ヨハネスブルグ・サミットとは？

持続可能な開発に関する世界首脳会議

World Summit on Sustainable Development



ヨハネスブルグ・サミット本会議の様子 © IISD/ENB-LeilaMead

● サミットの目的は？

1992年の「国連環境開発会議」(地球サミット)から10年の振り返り

- ・ アジェンダ21の実施状況の確認
- ・ 地球サミット後、新たに生じた課題の検証
- ・ 人々の意識の向上と今後の取り組み強化に向けた具体的方策・数値目標の設定

● サミットで議論された内容は？

途上国の**貧困撲滅**や、先進国を中心とした持続可能でない生産消費形態の**転換**の課題などの他、**自然資源**の利用と管理、**グローバリゼーション**、**健康**、**地域特有の課題**などへの対応や改善、そしてそれらを実施に移すための**手段**や**政治的枠組み**の取り決めなどが議論され、2つの合意文書がまとめられました。

また、サミットまでに、政府や任意の団体の集まりで取り決められた「**パートナーシップ・イニシアティブ**」と呼ばれる、持続可能な開発に向けたさまざまな自発的取り組みが登録・発表されました。

※1 国連環境開発会議(地球サミット)とは？

10年前、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで行われた、環境・開発についての地球サミット。

100人以上の首脳を含む政府代表に加え市民や産業界など約2万人が参加し、アジェンダ21や2つの環境条約などの具体的な成果を生み出した。

※2 「アジェンダ21」とは

地球サミットで各国政府が国連の場で合意した、21世紀に向けた人類の行動計画。

また、人々の環境・開発問題に対する意識や、環境と開発の融合である「持続可能な開発」という言葉を広める役割も果たしている。

地球環境パートナーシッププラザ

GEIC Global Environment Information Centre

ヨハネスブルグ・サミットでの 日本のNGOの活動

日本からのNGO参加者は約380名(約60団体)。国連の会議だけでなく、NGOのサミットであるグローバル・ピープルズ・フォーラムなどに参加し、さまざまな活動を行いました。

●政府への提言活動

海外のNGOと協調しながら情報収集し、ニュースレターの発行や政府への直接的・間接的な提言活動を行いました。

●交流

世界各国から集まった1万人以上のNGOメンバーと、スタディツアーやサミット会場での何気ない会話を通じて交流し、それぞれの活動に関する情報・意見交換を行いました。これにより、相互理解とネットワークの強化・拡大が促進されました。

●展示

グローバル・ピープルズ・フォーラム会場の展示スペースを利用し、これまでの活動を写真や視覚的資料を用いてアピールしました。

●セミナー

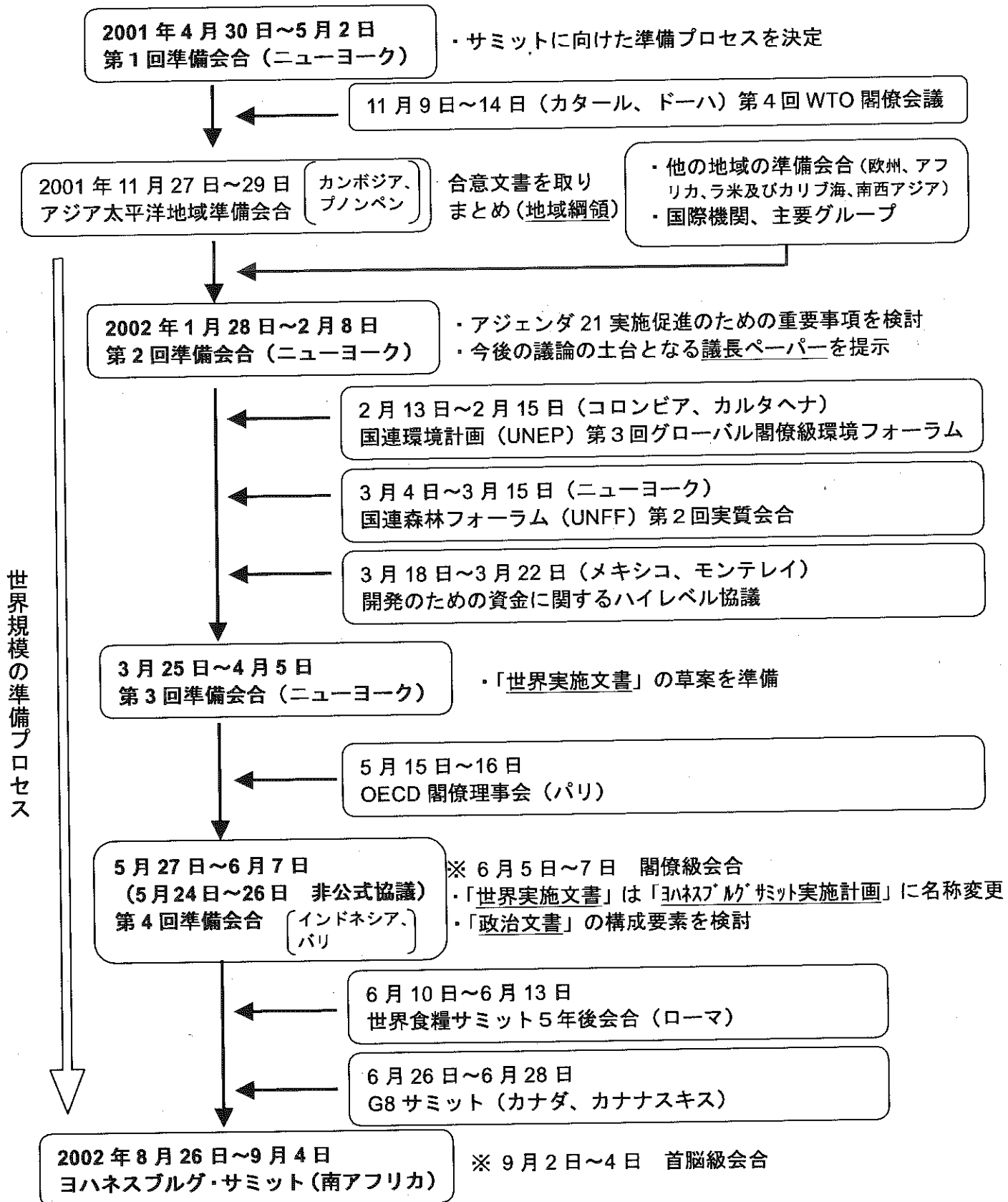
教育・エネルギー・ODA・公害など、日ごろ国内で活動しているテーマで、連日セミナーを行いました。

海外からも多くの参加者があり、今後の国際的ネットワークの拡大が期待されます。

●デモンストレーション

日本の青年団体が中心となって頻繁にアクションを行いました。その他多くのNGOも、国際NGOや現地市民によるデモンストレーションに参加しました。

ヨハネスブルグ・サミット (持続可能な開発に関する世界首脳会議) ～準備プロセス～



あとがき

環境パートナーシップオフィス (EPO) きはらちあき

WSSD は 10 年前のリオ・サミットより盛り上がりには欠けるといわれながらも、世界中から多くの NGO が準備会合の段階から参加し、精力的な活動を行っていた。南アフリカのヨハネスブルグで行われたサミット本番では、ヨハネスブルグ市内にあるサントン国際会議場で行われた国連主催のサミットに参加した世界の NGO は約 7000 人、サミットに関連して南アフリカを訪れた NGO 関係者は全体で 2 万人弱とも言われている。これは、リオ・サミットへの NGO の参加を多少上回っている。日本からも約 60 団体、380 名程度の NGO が参加した。また、ヨハネスブルグには行かなくても、リオ・サミットからの流れや環境への取り組みの中で、WSSD の動向のチェックや WSSD 関連の活動を行った NGO もあり、WSSD に関わった日本の NGO の全体数は比較的多かったといえる。

では、一体どんな団体が WSSD に関わり、どんな活動を行い、どんな成果があった(或いはなかった)と感じているのか?また、今後どんな活動を展開しようとしているのか?それを多少なりとも把握し、今後の参考に残しておこうというのが本報告集の趣旨であった。この報告集に載っている NGO が、WSSD 関連の活動を行った日本の NGO の全てではないが、ここにある報告だけでも、各 NGO の活動内容、WSSD に対する視点や評価が非常に広範且つ多様であることに改めて驚かされる。また、この報告集の取りまとめ作業は 2002 年 12 月に始まったが、その時既に多くの NGO は次の目標に目を向け、行動をはじめていた。WSSD は単なる通過点であったわけだが、WSSD での活動を通じて得た新たなネットワークを次の活動に生かしている NGO も少なからずある。国内における NGO や政府とのつながりの拡大はもちろん、海外のネットワークも広がっている。WSSD 以前にも、情報化社会の中で、独自のネットワークを通じて海外の NGO と日常的に情報交換し、その知識や活動が国際的になっている日本の NGO は増えてきていたが、こうした国際会議への参加は、地球規模での活動や連携を加速し強化する重要な機会であるといえる。

EPO では、2001 年 8 月より約 1 年、WSSD 関連情報の収集と配信のためのプロジェクトをおこなった。公開されている配信情報は、主に国連や政府、海外や国内の NGO が運営するウェブサイトやメーリングリストなど、インターネットから得ることができた。しかし WSSD が持つ意味や、そこで討議される環境・開発問題の根本を理解するには、実際の会議に出席し、政府や NGO の言動に直に触れることが不可欠であった。

2001年11月にカンボジアで開催された「アジア太平洋地域準備会合」から、翌年8月にヨハネスブルグで開催されたサミット本番まで、WSSDの一連のプロセスの中で出会った各国のNGOには、政府が頼ってくるほどの高い専門性をもつ団体が少なからずあった。こうした団体は政府に協力しながらも、驚くべき情報収集力と分析力で、会議の動向とその決定が社会に与え得る影響を即座に判断し、必要に応じて政府を正面から批判することもいとわなかった。私はそんなNGOがもたらす情報から、今まで知りえなかった多くの情報を得て、サミットとサミットが扱う現在の環境・開発問題について新たな視点を持つことができた。例えばWSSDでは、持続可能な開発の重要な3本柱として、環境・経済・社会の3要素が繰り返し強調されたが、初めてこれを聞いた時、私にはこの関連性が良く判らなかつた。しかし経済的利害に基づいた様々な主体の行動が、今の地球環境に大きく影響し、ある特定の地域や状況にある人々の生活環境を侵害し破壊するなどの社会問題や人権侵害を引き起こしていることなどを、世界中のさまざまなNGOによる訴えから気づかされ、環境問題は社会・経済の問題と密接に関わりあっていることを思い知ったのである。

このプロジェクトに関わるまでこのような分野に関わりがなかった私は、これほどたくさんのNGOが、多様な視点と専門性を持って積極的に活動している事実を殆ど知らなかつた。専門性が高くなればなるほど、一般市民とNGOとの間に距離が出来てしまうことがある。しかし本来は地域住民・市民のリーダーとして市民の利益を代表する存在がNGOであり、NGOが社会を変える力になれることを考えると、これはいささか皮肉な現実である。それでも、私が1年間でいろいろなことに気づくことができたように、こうした事態が変わっていく可能性はまだまだあるはずである。WSSDに様々な形で関わった全てのNGOが、それぞれの活動を次の行動につなげると共に、広く一般市民ともつながっていけるともっと大きな力になると思う。

最後に、この報告集作成にあたって多大なご協力を頂いた団体のみなさんと、いろいろなアドバイスや作業上の支援を頂いた多くの方々に心より感謝したい。

ヨハネスブルグ・サミット NGO 活動報告集

発行日：2003年（平成15年）3月

発行・編集：環境パートナーシップオフィス

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

TEL：03-3406-5180 FAX：03-3406-5064

